

『必ずいのちはつながっている』 5歳児 7月 伏見こども園

エピソード

一カ月間大切に世話をしてきたカイコがもうすぐ繭をつくろうとしていた頃、個人飼育していたカイコの数匹が死んでしまっていた。「クワの葉を全然食べなくてウンチもしてなかった」「体の色も黄色っぽくなっていた」と、元気な姿と比べて感じた違いから要因を考え、「悲しい」「かわいそう」と涙を流していた。そこで、話し合いをし“いのち”について考えることにした。



保育者

“いのち”ってなに？



子ども

生きてるってこと。“たましい”のこと

いのちがあるっていうのは生きてること、いのちがなくなるのは死ぬことだと思う

カイコは50日しか生きられないんだよ。卵を産んだらすぐに死んじゃうんだよ

生き物によっていのちの長さが違うっていう話を前の話し合いでもしたよね
カイコはみんなよりもずっと短い間しか生きられないんだよ。ヒトはどうか？

長く生きてるよ。おじいちゃんおばあちゃんになるぐらい

そうだね。でも、全員がおじいちゃんやおばあちゃんになるまで生きられるわけじゃないんだよ。怪我や病気で早くに亡くなる人もいるし、反対にうんと長生きする人もいるの
毎日大切にお世話をしてもカイコが死んじゃうこともあるんだよ

ママのおばあちゃんも死んじゃってお墓にいる

でも、年をとったり病気で死んでも必ずいのちはつながってるよ
死んでしまったカイコもいるけど、他のカイコが卵を産んで、赤ちゃんが生まれれば、
お母さんカイコが死んでも子どもがいのちをつないでるもん

うん、そうだね
卵→赤ちゃん→カイコ→サナギ（繭）→カイコガ→卵 ってぐるぐる繰り返してるんだよ

でもやっぱり悲しい

そうだね。悲しいよね。
でもさ、死んでしまったらみんなが大切にしていたこともなくなっちゃうのかな？

ううん、それはなくなるらない！

死んじゃっても大事にお世話してたことは変わらない

かいこも「ありがとう」って思ってると思う

人もカイコもおたまじゃくしもカエルもみんないのちをもって、ひとつしかもってない
だから大切にしないといけないと思う

いのちは大事だから戦いとかバトルとかはよくないと思う。やめた方がいいと思う

子どもの育ちや学び

プニプニしてて
かわいい(親しみ)



大きくなって嬉しい
(喜び・期待)

死んじゃった・・・(悲しい)



どうして死んで
しまったんだろう
(推測・悲しい・
理不尽な思い・愛情)

個人飼育を行い、一人一人が“自分のカイコ”と思って育てる中で「家に持って帰ってお世話したい」と親しみもったり、「カイコガになるのが楽しみ」と成長することへの期待をもったりする。

大切に世話していたのに死んでしまったことへの理不尽さを感じながら、これまでの様子を振り返り、死んでしまった要因を考える。

“死”に触れることで、“生”を意識する。

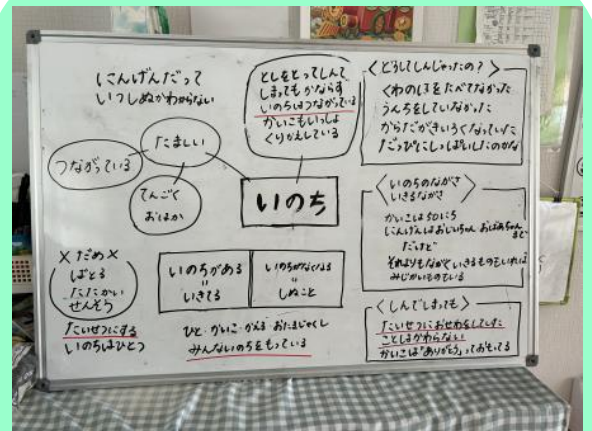


いのちってなんだろう？
(熟考・思いを巡らせる)

“いのち”という目に見えず、形の無いものを自分なりに捉え、感じ、深く考える。

親が死んでも子供がいのちをつないでいくことを知る。

答えのない問いだからこそ、話し合いを通して友達の考えに刺激を受けたり新たな視点での捉え方を見出したりする。



<話し合いで子どもたちが出し合った考え>

保育者の思い

- ・カイコが死んでしまうというショックな出来事でしたが、大事に育ててきたからこそ“悲しい”という感情が湧くのだと思います。これまでは捕まえて虫かごに入れていたバッタやダンゴムシが死んでもそれほど悲しんではいませんでした。親しみをもち一人一人が大切に育ててほしいと思い、個人飼育を行っています。
- ・カイコの飼育を始める前にも「いのちってなに？」と同じ質問をしましたが、誰も答えることができませんでした。「今なら子ども達も考えられるかもしれない」「難しいけれど真剣に考えてほしい」と思い、いのちについての話し合いをすることにしました。
- ・話し合いの最後の「死んでしまったらそれまでのことがなくなってしまうのか」は、保育者自身も答えが見つからないけれど子ども達に問いかけました。答えが見つからなくても考えることに価値があると思い、子どもと一緒に思いを出し合いました。

家庭だったら・・・

これまでに死に向き合う経験がなかった子もいると思いますが、自分なりに一生懸命考える姿が見られました。答えのない問いですが、「いのちって何だろう？」「生きてるってどういうことだろう？」と、お家の人も一緒に考えて、思ったことを子どもに伝えてあげてください。